

町連協だより

道央ブロック町内会活動研修と 地域の課題

千歳市町内会連絡協議会

会長 矢島 渡

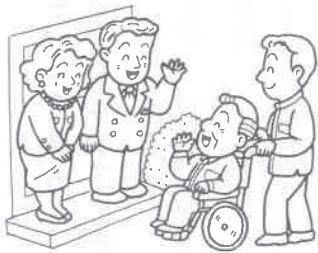
「住民相互の助け合いシス
テムを考える」をテーマに、
平成十年度道央ブロック町内
会活動研修協議会が、来る十
一月十一日当市において、十
七市三十九町十村から多数の
関係者の参加を得て開催され
ることとなりました。当市町
連協の総力をあげて取り組み、
その成功を祈念致します。

近年地域社会における課題
は、かつて経験した事のない
急速に迫る人口の高齢化と、
核家族化の進行に伴う高齢世
帯、独居老人世帯の激増と寝
たきり高齢者の介護の問題が
その第一とされております。
この状態に国としては、公的
介護保険制度を打ち出し、そ
の実施が二年後に迫っております。

焦眉の急と考えるのでありま
す。

「一人の不幸も見逃さない
住民相互の助け合い」その実
現の為に福祉委員の活動に
期待し、この態勢の定着によ
つて、二年後に迫った公的介
護保険の地域としての対応に
万全を期したいのであります。
未だ導入に至っていない町内
会の深いご理解とご協力を切
にお願致します。

北海道町内会連合会が主催
する道央ブロック協議会を契
機として事の重大さを認識し
他の市町村に遅れをとらない
よう切望致します。



第 3 号
平成10年10月10日
◆発行◆
千歳市町内会
連絡協議会
千歳市総合福祉センター
TEL(0123)27-2525
◆印刷◆
総合印刷
道央プリント
千歳市青葉6丁目1-8
TEL(0123)23-5535

特 集

ユニークな活動をしている 町内会の紹介

◆第二号より掲載している町内会の紹介を
順次載せて行きたいと思っておりますので、
あなたの町内会のユニークな活動をお知
らせ下さい。
◆今回は五町内会をご紹介します。

「町内会だより」を発行 福祉だより

里美町内会
会長 星 正吾

向陽台住宅団地のほぼ中央
にあり、町内には泉沢向陽台
コミュニティセンター、消防
署、交番等があり、また近所
には郵便局をはじめ多くの
店舗が並び恵まれた位置にあ
るのが里美町内会です。世帯
数は三五〇戸人口一、二四五
人(八月一日現在)ですがまだ
まだ建築中の住宅もあり人口
は増える見込みです。

当町内会は六十五才以上の
世帯は八十一戸一二二名を数
えます。そのため高齢者や心
身に障害のある方についての
状況を福祉委員の方々にいち
早くお伝えし、援助の手をさ
しのべております。
福祉委員は町内を区割りし

二人一組となり常に目配りを
し、「ひとりの不幸も見逃さ
ない住み良い町づくり」のた
めに研修を重ね努力しており
地域の皆様に感謝されており
ます。「敬老の日」には高齢
者がお祝品を贈呈し、また高
齢者が一堂に会し福祉交流親睦
会を行っております。年末の
給食サービスは、お一人暮ら
しの方々と福祉委員の方々が
一緒にお食事会を行い、楽し
い一時を過ごし喜ばれており
ます。また福祉だよりを発行
し町内会だよりと共に福祉に
対する理解と協力を呼びかけ
ています。こども会の育成に
も力を注ぎキャンプ、クリス
マス会、盆踊りや各種大会へ
参加し好成績をあげておりま
す。婦人部は、比較的若いお
母さんが中心になり、研修
旅行、縄づくり、老人向料
理講習会等で頑張っています。

資源回収は多くの方の協力を得ております。防災関係では生命を守る事を第一に考えた組織づくりに取り組んでおります。今年度は町内会館建設補助金の交付を受け現在建築中で九月末までには完成の予定です。

資源回収還元金の 使用について

長都駅前町内会
会長 金山文四郎

長都駅前周辺地域は急速に開発が進んでおります。

このような生活環境の中で、町内会及び周辺地域が自然との調和を維持しながら更に住み良い街、災害に強い街になるために、皆で知恵を出し合い二十一世紀に向けて新しい時代を担う多くの方々が大いに希望を帯てる街になるように願っているところです。又そのために町内会役員が先頭に立って努力しようと常々話し合っているところです。

町内会の皆様から出された資源の還元金を如何に役立てて行くか？という事で全世帯を対象にアンケートをとりました。結果は次のとおりであります。

◆資源回収に付いての アンケート結果◆

資源回収還元金を町内の環境改善(ゴミ箱)に使用することでアンケートを実施したところの結果は次のとおりでした。

- 設問一、資源回収について
 - ① 資源回収に拠出している 一〇三
 - ② 時々出している 一〇四
 - ③ 今まで出した事がない 二九
- 設問二、資源回収の手伝いに付いて
 - ① 資源回収の整理、積込みに協力する 三八
 - ② 誘われれば手伝う 一四八
 - ③ 手伝いは遠慮したい 二八
- 設問三、還元金の使い方
 - ① 全額ゴミ箱設置に使用する 一一二
 - ② ゴミ箱と行事の助成に使用する 一一五
 - ③ 町内会費として使用する 七

以上で対象戸数三五〇戸に対し、回収率は六十八%でありました。このアンケート結果を踏まえ、今年度「鉄骨の金網」四個を各区に配置し、容積、交通障害、冬季間の除雪等も考慮し、今後全ゴミステーションにゴミ箱を設置するべく努力してゆきたいと思っております。

手をつなぎあう

町内会をめざして

梅ヶ丘一丁目町内会
会長 馬淵良作

昭和五十一年十数戸により発足した町内会は、平成七年に二十周年の式典、祝賀の会を盛大に行い、又記念誌の発刊をしました。一〇六戸の小さな町内会です。

◎納涼祭り

設立以来毎年七月下旬に、

町内の公園においてジーンズカン料理を中心に百数十名の会員家族が集まり、料理を囲んで親睦の一刻を過ごしました。焼肉鉄板、レンジ台から近年はドラム缶焼き台を作り、イカ、焼そば等、舌づつみを打つ姿は町内夏の風物詩の一つです。この集まりの前に消火訓練を行なって防火意識を高揚しています。(本年は清掃時)。今年初めて盆踊り(二日間)が行われ子供達のゆかた姿又婦人用ゆかたも購入して、踊りの輪に若々しい姿が見られたのも活動の変化でした。

◎資源回収活動

平成元年婦人部を中心として他町内活動の実情を視察し

平成10年度 ◆道央ブロック町内会活動 研究協議会千歳大会◆

テーマ「住民相互のたすけあいシステムを考える」

1. 日時：平成10年11月11日(水)
11月12日(木)
2. 会場：千歳市文化センター
3. 参加費：¥2,000

◆主管：千歳市町内会連絡協議会

※分科会内容

1. 町内会におけるたすけあい活動について考える
2. 町内会におけるゴミのリサイクルについて考える
3. 町内会における女性の活動について考える

※講演

テーマ「地域の介護問題と助け合い活動への期待」
講師：特別養護老人ホーム胆振東部鶴川慶寿苑
理事・施設長 両川吉郎氏
※詳細は各町内会に配付してあります。

◎町内清掃作業と「梅の会」について◎

て「当番制」による体制をつくり実施してまいりました。役員、積極的な動き、回収の意義の浸透、きめ細かな作業方法づくり等でその成果は年々向上し戸あたりの回収率は市内トップを生み出しました。役員交代もスムーズに引き継がれ、還元金も、老人会、子ども会への助成と、婦人部の会食等楽しい集いも催し、共働と親睦の輪をつくりあげております。出発の時点で婦人部による十分な話し合いと役員の真剣な取り組みの成果であると考えているところであります。

春秋二回の清掃作業は、七八割の参加で、公園や町内全般の清掃が行われきれいなまちづくりに努めています。

梅の会(六十才以上の会)は現在十五名、隔月会食(誕生祝い兼ね)、日帰り旅行、一泊旅行等、レクも合わせ会費年二、四〇〇円の他、町内会助成金、資源回収還元金等で親睦を重ねています。

※反省

(各部責任制の強化)活動が特定役員に偏りがちなので、本年より班単位輪番制にいたしました。

みんなの力で作り上げた運動公園

住吉四丁目町内会

会長 清水 清

我が町内会は、昭和四十七年三十世帯余りの集団住居から始まり、昭和四十八年初めの町内会役員として会長、副会長、会計部長を選出し住吉四丁目町内会が誕生しました。

以来住み良い町内づくりを旨とし、町内会役員並びに会員皆さんが幅広い活動を展開し活躍してきたところであり、昭和五十三年住民パワ―が行政をリードした運動公園の造成がありました。住吉地区には住吉二号公園という大きな公園がありました。草木の放題という名ばかりのものであり、又子供達のシンナー遊びの場所でもありました。青少年の非行防止から早急な公園整備が望まれる状況の中、日常生活が明るくかつ安全である事を願う町内会々員が中心となり草刈り、木の伐採、ブルドーザーによる整地等、町内会の積極的な行動により市も腰をあげ公園

整備に着手しました。しかし大半は町内会によるものが大きく、こうして住吉二号公園は名実ともに運動公園として生まれ変わりました。公園開きを兼ね初めての家族運動会を開催し、六十三世帯全員の参加を見ました。草木が伸び放題でとても運動会など出来ないと思っていただけに、自分達の手で作り上げた公園に町内会々員は満足顔だったのが思い出されます。さらにこの活動がその後の町内活動に大きな示唆を与えたものがあります。

「町内会は一家族」を合い言葉に

稲穂町内会

会長 廣 永 實

稲穂町内会は、五十四年に当時の末広新町地区の水田及び灌木地帯に、千歳市の人口増加に伴う住宅地確保のために造成、分譲された新興住宅地で、昭和五十五年五月、一丁目から四丁目及根志越の一部をもつて構成された地域に当初約百世帯でもって町内会が発足したのです。この地域は明治二十七年頃から原生林

の生い茂る野原に先人たちが開拓の鍬を入れ千歳川上流より用水路を設け、稲作の造田に試行錯誤ついに秋に実り豊かな稲穂が波打つ水田地帯となったわけです。その先人達の苦労と偉業を偲び、私達住民がこの地を第二の故郷として、子孫に先人達の開拓魂を継承のため「稲穂」と命名されたものであります。その後世帯数も年々増加現在六三〇世帯を有する町内会に発展し、発足以来楽しく明るく住み良い街づくりと地域住民の福祉の増進を理念として各種事業を行っています。平成十年度事業として、特に重視しているのは、子供会及び婦人部の活動であり「町内会は一家族」を合い言葉に

◎子供会◎

レクリエーション集会、緑のキャンプの集い、ラジオ体操、花火大会、子供御輿、クリスマス集い、秋の遠足、新年雪遊び大会など「情操教育」を狙いとし、

◎婦人部◎

親睦会、町内会館の大掃除、婦人部研修会、暢寿園、千寿園大掃除、新一年生を祝う会

1 年間200円の会費

会費額は、年200円です。年度途中の加入も同額になります。

2 最高200万円の見舞金

平成9年4月から死亡見舞金Bの10万円と軽傷事故一律5,000円の見舞金が新設され、見舞金がさらに充実しました。

種 類	支 給 額	条 件
死亡見舞金A	2,000,000円	活動中における外因・外傷の事故による死亡に対して支給 事故発生後180日以内に死亡の場合
死亡見舞金B	100,000円	死亡見舞金Aに該当しない、活動中の死亡に対して支給 事故発生後24時間以内に死亡の場合
後遺障害見舞金	限度額2,000,000円	後遺障害の程度により支給 事故発生180日以内に生じた場合
傷害見舞金	入院 入院日数1日につき1,500円 通院日数1日につき1,000円	90日を限度に支給
	軽傷事故	
医師の証明料	一事故5,000円を限度に実費支給	軽傷事故は証明が不要のため除く

など「奉仕の精神」の育成を主眼とし、また、町内会親睦のための行事として、リサイクルフェスタの参加、子供夏祭り及び盆踊り、市民盆踊りへの参加、子供相撲大会ファミリー運動会などへの参加を本年の重点事業として推進しています。他の町内会に比べて若い町内会ですが、若い故に町内会の発展のために「我々は今、何をすべきか」の使命感に燃えて、役員及び会員一同鋭意努力いたしております。

末広西少年消防クラブ

北海道消防協会
会長賞受賞

末広西町内会
会長 塚本一雄

我が末広西少年消防クラブは平成九年六月十四日北海道消防大会の席上優良消防関係団体として北海道消防協会会長賞を受賞しました。これも関係各位のご尽力の賜であり深く感謝申し上げます。昭和五十二年八月十四日発足し設立二十年余り、消防長様はじめ関係機関婦人防火委員の皆様

様には、ご理解とご支援、ご指導を賜り今回の受賞と相成りました。末広西少年消防クラブは全員一致協力し、防火のため毎年七月消火訓練、春秋の火災予防運動期間中、柏子木を鳴らしながら、町内を廻っております。又、十二月の歳末特別市民予防運動、一月の出初め式、二月消火栓の除雪等に活躍しています。この活動が全市民的なひろまりを見せ火災ゼロ運動と発展すれば素晴らしいと思います。

心豊かな人生を送るために

千歳市町連協
婦人部会長 山内幸子

過日の婦人部会研修会は百三十人を迎え盛大に行われました。その研修の中から学んだ「心の処方箋」を披露してみましよう。

その一、思い煩う事なかれ
|| 今日の日を精一杯生きる事。

その二、気心を養うべし ||
心を平静にして、ストレスを上手に解消する事。

その三、今日という日の連続が一生であり、一生で大切なのは、長さでなく質である ||
ひとときひとときの「今」が大切。

その四、賢い「快眠」「熟眠」「安眠」を知れ
|| 一日が終わり床に付いた時感謝や喜びが湧いてくるのは目覚めている時の報い。心と身体は一つ。

その五、楽しい食事で人生を豊かに || その土地

平成10年秋の交通安全運動 「スピードダウンとシートベルト」 2つのSで安全運転を



- ★日暮れ時の歩行者と自転車利用者(特に高齢者)の交通事故防止
- ★スピードの出し過ぎなど無謀運転の防止
- ★シートベルトの着用の徹底

毒物混入にご用心!

- ◆職場や家庭で注意しましょう。缶・紙パック・ペットボトルのキズや穴など必ずチェック。
- ◆自販機の取出口や周辺で拾っちゃダメ。
- ◆子供に注意の一声を。
◎ おかしいと思ったら、110番異常があった缶や飲料水は、捨てるに警察に……

の旬のものを腹八分目栄養のバランスを考え緑黄野菜をとる。カルシウム不足は交通事故につながる。人間性を高めるには良い仲間と食事する事「台所は聖なる菜局」むやみに薬を飲むべからず。
さあ、あなたも「心豊かな人生を」送りましょう。
(光塩学園女子短期大学客員教授根本和雄氏の講演より)

編集後記



この度多くの方々のご協力を頂き町連協だより第三号発行の運びとなりました。

今回も編集委員一同、数回の編集会議を開き、紙面内容とも充実した町連協だよりをと検討、努力致しました。ご寄稿頂きました各町内会長さんに厚くお礼申し上げます。今後も各町内会のご紹介を続けて参りますのでご協力の程よろしくお願い申し上げます。

編集委員 小司 統

- 鳴海二郎 高橋英三 小竹武雄 篠山裕之 水野敏和 蔭 唯男 豊満昌治

事務局